


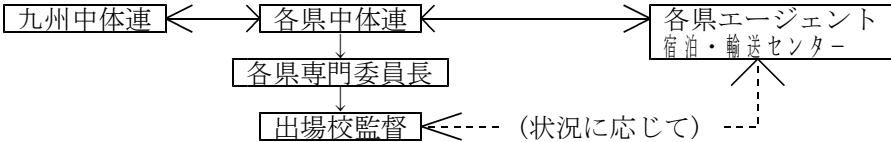
# 災害等緊急時における九州大会開催の対応について

H30. 6. 19

## 1 大会運営の基本

- (1) 原則
- 九州の代表を決定することを原則とする。
  - 大会成立のための必要参加数は、2県3チームとする
  - 競技により1日の順延もあり得る。(軟式野球・ソフトテニス・ソフトボール・テニス)  
ただし、沖縄県開催競技については、沖縄県計画輸送の範囲内で行う。
- (2) 留意事項
- 各県チームが1チームも入れず、大会開催が不可能な場合  
→『中止・全国大会棄権』
  - 一部のチーム入りがあり、大会が成立した場合  
→『九州代表を推薦または抽選で決定することも可能』  
推薦・・・チーム入りがあったが、全中出場チーム数に満たない場合に推薦する。  
抽選・・・大会成立条件がそろったが、天候等で代表決定戦ができなかった場合に抽選する。
  - 運営方法を変更して実施することも可能  
→『競技2日間で1日に短縮等』
  - いずれの場合も、最終判断は九州中体連会長が行う。
- (3) 緊急時の連絡
- 
- ```
graph TD; A[九州中体連] <--> B[各県中体連]; B <--> C[開催県実行委員会]; C --> D[各県専門委員長]; D --> E[出場校監督];
```
- (4) 補足
- 陸上及び水泳については、2県参加が成立基準。(大会中止もあり得る)
  - 競技大会は成立したが、男子種目又は女子種目どちらかみの開催もあり得る。その場合の措置は、上記留意事項①②に準ずる。

## 2 台風接近時の対応

- (1) 方針 出場校の大会参加が可能な方向で、最大限の努力と配慮をする。
- (2) 連絡態勢
- 不確定な情報の錯綜による、出場校の混乱を防ぐために、各県中体連が緊密に連絡を取り合い、確実な情報提供に努める。
  - 最終判断時刻は未定につき、各県関係者は確実に連絡がとれるようにして待機しておく。
- (3) 連絡方法
- 
- ```
graph TD; A[九州中体連] <--> B[各県中体連]; B <--> C[各県エージェン  
宿泊・輸送センター]; B <--> D[各県専門委員長]; D <--> E[出場校監督]; E -.-> F["(状況に応じて)"]; F -.-> C;
```
- (4) 競技前日
- 深夜及び翌日の到着見込みがあれば、到着遅延県の「専門委員会」「監督会議」「開会式」への参加を免除し、予定通り実施してもよい。なお、協議内容は確実に事後連絡する。
  - 各県実行委員会は、競技会場、宿舍確保、既着県の延泊経費負担等の状況を考慮し、競技開始最大遅延可能日時を設定しておく。
- (5) 競技運営
- 大会そのものの運営が優先されるため、台風の進路予想によっては突然の再変更があり得る。したがって到着したにもかかわらず、出場できなかったという事態が生じる場合もある。
  - 屋外実施競技においては、晴雨の状況に応じて上記の場合と同様の対応を取る場合がある。
  - 専門委員会及び監督会議で確認し、九州中体連会長の了承が得られれば、順延が可能な競技もある。(軟式野球・ソフトテニス・ソフトボール・テニス)

## 3 感染症への対応

- (1) 方針 疑い、症状のある場合には、ただちに医療機関に搬送し、医療機関の指示、指導を受け、感染拡大防止等に努める。
- (2) 連絡方法 大会運営の基本(3)の緊急時の連絡に準ずる。尚、行政へも連絡すること。
- (3) 競技運営 大会参加可能なチーム・選手によって、代表を決定する。

## 4 全国瞬時警報システム(Jアラート)への対応

- (1) 発生事例
- 大規模自然災害(地震・津波・火山噴火等)
  - 武力攻撃事態(弾道ミサイル発射等)・存立危機事態
- (2) 方針 大会に関わる全ての人の生命及び安全を確保するために、最大限の努力と配慮をする。
- (3) 連絡方法 発生事象に応じて、実行委員会が関係機関と連携して、待機・避難等の連絡を速やかに行う。
- (4) 競技運営 事前に大会の中断・待機・避難・再開等のマニュアルを作成して、大会関係者に周知しておく。